

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年12月21日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
12月23日（金） 13：00～16：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「コロナ禍を踏まえた新たな国土形成計画の課題」
1月7日（土） 13：30～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「婚姻平等の射程」
1月11日（水） 13：00～17：00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「物理学におけるジェンダーギャップの現状と対策・物理教育の役割」
1月13日（金） 13：00～17：00	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「新興・再興感染症の克服に挑む ～COVID-19との闘いを経て～」
1月19日（木） 16：00～17：30	衆議院第一議院会館 国際会議室	公開講演会 「ジェンダー視点に基づく議会改革」
1月22日（日） 10：00～13：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方ー機能分化社会から機能混在社会へー」
1月22日（日） 13：00～16：40	オンライン開催	公開シンポジウム 「薬剤師のプロフェッショナリズムを考える」
1月23日（月） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「情報学シンポジウムー量子コンピューティングの展開ー」
1月25日（水） 14：00～16：15 1月26日（木） 19：00～21：00	オンライン開催	国際シンポジウム 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2022『災害と健康』」
1月26日（木） 10：00～17：35	日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム 「原子力総合シンポジウム 2022」
1月28日（土） 13：00～16：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「ダイバーシティ推進と日本社会の＜不平等＞」

※新型コロナウイルス感染症の等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

日本学術会議 公開シンポジウム

コロナ禍を踏まえた 新たな国土形成計画の課題

主催：日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理学分科会

後援：地理学連携機構、公益社団法人日本地理学会、一般社団法人人文地理学会、経済地理学会

問合せ先：日本学術会議人文・経済地理学分科会委員長 松原 宏 E-mail matubara@fpu.ac.jp

■開催趣旨：

2022年7月に、「国土形成計画」（全国計画）の中間とりまとめが公表された。そこでは、「地域生活圏」、「スーパーメガリージョン」、「令和の産業再配置」が、3つの柱として取り上げられている。本シンポジウムでは、次期国土形成計画の3本柱について、人文・経済地理学のこれまでの研究成果をもとに、それぞれの内容を検討するとともに、コロナ禍を踏まえた国土のあるべき姿に関する議論を喚起し、新たな国土形成計画のあり方を考えたい。

■日時：

2022年 12月 23日（金）13:00-16:00

■オンライン開催 参加無料 どなたでも参加いただけます

（事前登録が必要です。下記URLもしくは右上のQRコードへアクセスし、フォームを送信してください。）

<https://forms.gle/ooymG7yPvdirrG5HA>



■プログラム 総合司会 近藤章夫（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部教授）

13:00-13:10 開会あいさつ

山本佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究所教授）

13:10-13:30 「新たな国土形成計画の策定に向けて」

松家新治（国土交通省国土政策局総合計画課課長）

13:30-13:50 「デジタル田園都市国家構想と地域生活圏」

作野広和（島根大学教育学部教授）

13:50-14:10 「スーパーメガリージョンは地域を共振・活性化するか」

浜口伸明（日本学術会議連携会員、神戸大学経済経営研究所教授）

14:10-14:30 「産業立地の動向と持続可能な産業再配置」

鹿嶋 洋（熊本大学大学院人文社会科学部教授）

14:30-14:40 休憩

14:40-15:00 「コロナ禍を踏まえた観光のあり方について」

吉田道代（日本学術会議連携会員、和歌山大学観光学部教授）

15:00-15:55 総合討論

問題提起「新たな国土形成計画のあり方について」

松原 宏（日本学術会議第一部会員、
福井県立大学地域経済研究所特命教授）

15:55-16:00 閉会あいさつ

森本 泉（日本学術会議連携会員、
明治学院大学国際学部教授）





「婚姻平等の射程」

日本学術会議では、「法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会」を中心に今期、婚姻を含め様々なパートナーシップに関する知見の集積を行ってきました。他方、現場では「同性婚」に関する司法判断が札幌・大阪・東京で示されたのを受け、今回裁判現場での意見を反映させながら、広く婚姻平等に関する意見の收拾を行うために、開かれた形でのシンポジウムを開催したいと思えます。

<次第>

- 13:30 趣旨説明（司会）
- 13:40 総論「婚姻平等の射程」
二宮 周平（日本学術会議連携会員、立命館大学名誉教授）
- 14:20 札幌地裁判決と大阪地裁判決の検討～弁護団から
中川 重徳（弁護士）
- 14:50 原告当事者の思い
帯広在住の方、札幌在住の方
休憩（10分）（15:30～15:40）
- 15:40 比較法から一台湾法を手がかりに
鈴木 賢（日本学術会議連携会員・明治大学法学部教授）
- 16:10 憲法から
大河内 美紀（日本学術会議連携会員・名古屋大学大学院法学研究科教授）
- 16:40 討論
- 17:20 コメント
三成 美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授）
- 17:30 終了

日時：令和5年（2023年）
1月7日（土）
13:30～17:30

開催：オンライン

参加費：無料

定員：300名

（事前予約制）

対象：どなたでもご参加いただけます

申し込みは
こちら（QR/URL）
から



(<https://forms.gle/eVklPe4tDGb5e3wZ9>)

問い合わせ：hsnhrhk@yahoo.co.jp（星乃）

主催：日本学術会議法学委員会社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会、
法学委員会ジェンダー法分科会
共催：科学研究費 基盤研究（C）課題番号21K00949 研究代表者 星乃治彦
「ヴァイマル期における性科学研究所の展開」

物理学におけるジェンダーギャップの現状と 対策・物理教育の役割



<開催日時>

令和5年**1月11日** (水) 13:00~17:00

<会場> 日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

(Zoomによるオンライン配信も行います)

参加費無料 (どなたでもご参加いただけます)

申込方法

参加を希望される方は、1月9日(月)までに下記URLまたは右のQRコードにより事前申し込みをお願いします。(※オンライン参加で登録いただいた方には、接続方法を追ってご連絡いたします。)

<https://forms.office.com/r/mftQT0xwFp>



~プログラム~

開会挨拶 13:00~

梶田隆章 (日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所)

趣旨説明 岡 真 (日本学術会議連携会員、日本原子力研究開発機構)

第1セッション 13:10~14:30

物理学におけるジェンダーギャップの現状と日本学術会議の取り組み

野尻美保子 (日本学術会議会員、高エネルギー加速器研究機構)

Providing more equitable and effective physics education

Carl Wieman (Stanford University、オンライン講演)

物理学におけるジェンダーギャップの現状・物理教育の視点で

新永浩子 (日本学術会議連携会員、鹿児島大学)

休憩 (14:30~14:40)

第2セッション 14:40~15:50

教育分野における男女共同参画推進の取り組み (仮)

安里賀奈子 (文部科学省 総合教育政策局)

中等理科教育におけるジェンダーギャップの現状

稲田結美 (日本体育大学)

物理学会及び大学におけるジェンダーギャップ解消の試み

田島節子 (日本学術会議連携会員、日本物理学会会長)

休憩 (15:50~16:00)

パネル討論 16:00~16:55

閉会挨拶 笹尾真実子 (日本学術会議連携会員)

お問い合わせ先：香川大学 笠研究室 TEL 087-832-1457 E-Mail persympo(at)gmail.com (at)を@に変換してください。

※ 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期・中止・開催方法の変更等の措置をとる場合もあります。また、感染拡大予防ガイドライン等に基づく適切な感染防止策を講じます。(参加者には、マスクの着用など、感染拡大防止対策の徹底に御協力いただきます)

新興・再興感染症の 克服に挑む ~COVID-19との闘いを経て~

会期

2023年1/13金 13:00~17:00

場所

日本学術会議講堂・ハイブリッド

参加費
無料

プログラム

座長

一條 秀憲

日本学術会議連携会員、
東京大学大学院薬学系研究科 教授

深見 希代子

日本学術会議連携会員、
東京薬科大学 名誉教授

13:00 開会の辞

一條 秀憲

日本学術会議連携会員、
生物化学薬学分科会 委員長

佐々木 茂貴

公益社団法人 日本薬学会 会頭

講演

13:10

COVID-19感染症 重症化/
合併症の基礎メカニズム解明から創薬応用へ
1 今井 由美子

日本学術会議連携会員、医薬基盤・健康・栄養研究所
プロジェクトリーダー

13:45

抗ウイルス薬開発の新たな展開：
次のパンデミックに対する更なる備え
2 井上 純一郎

日本学術会議連携会員、
東京大学医科学研究所 特命教授

14:20

新興感染症とmRNAワクチン
3 石井 健

東京大学医科学研究所
感染・免疫部門ワクチン科学分野 教授

休憩10分

15:05

COVID-19がもたらした
我が国のレギュラトリー・サイエンスの進歩
4 宇津 忍

医薬品医療機器総合機構 理事(技監)

15:40

サイレントパンデミックとしての
薬剤耐性菌問題(AMR)とワンヘルスアプローチ
5 舘田 一博

東邦大学医学部微生物・感染症学講座 教授

16:15

人獣共通感染症の克服を目指して
一次のパンデミックにどう備えるかー
6 喜田 宏

北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所
特別招聘教授・統括

16:50 閉会の辞

長野 哲雄

日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、
日本生命科学アカデミー 監事

山崎 真巳

日本学術会議会員、
千葉大学大学院薬学研究院 教授

司会・実行委員長

赤羽 悟美

日本学術会議連携会員、東邦大学医学部生理学講座 教授

シンポジウム概要

<https://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>

連絡先

2022biopharm@ml.toho-u.jp

事前申し込み

<https://forms.gle/rtBI2Fpa3JtzP2NZ7>



【主催】日本学術会議 薬学委員会 生物系薬学学科会

公益社団法人 日本薬学会

【共催】日本生命科学アカデミー

【後援】公益社団法人 日本生化学会

公益社団法人 日本薬理学会

一般社団法人 日本感染症学会

公益社団法人日本薬学会
The Pharmaceutical Society of Japan



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

サラ・チャイルズ教授 講演会

ジェンダー視点に基づく議会改革

Toward a Gender-sensitive Parliament

[日時] 2023年 **1月19日** (木) 16:00-17:30

[場所] 衆議院第一議員会館 国際会議室

※参加無料／同時通訳あり

※定員 100名

※事前申し込み制／こちらより申し込みください→



I P U (列国議会同盟) は2012年に「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」を採択し、各国議会が自己点検を実施することを推奨している。日本においても I P U 自己点検に向けて、衆議院が2021年4～5月に全衆議院議員を対象に「議会のジェンダー配慮への評価に関するアンケート調査」を実施し、6月に報告書を発出した。イギリスでは先進国議会としては初めて2018年にI P U自己点検を実施している。そこで、イギリスの実施状況に詳しく、またジェンダーの視点から議会改革を提言しているこの分野の第一人者、サラ・チャイルズ教授をお招きし議論を深める。

[開会の挨拶]

大串和雄 (日本学術会議連携会員・東京大学大学院法学政治学研究科教授)

[趣旨説明]

三浦まり (日本学術会議連携会員・上智大学法学部教授)

[講演]

サラ・チャイルズ (英国エジンバラ大学社会政治学部教授)

[討論]

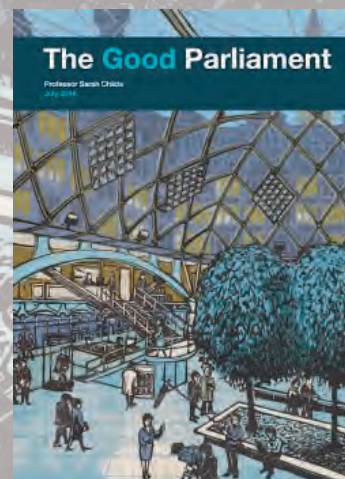
武田宏子 (日本学術会議連携会員・東海国立大学機構名古屋大学大学院法学研究科教授)

[閉会の挨拶]

中川正春 (衆議院議員、政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟会長)

サラ・チャイルズ Sarah Childs

ブリストル大学、ロンドン大学バークベックカレッジ、ロイヤル・ホロウェイ校で教鞭を執った後、2022年よりエジンバラ大学社会・政治学部教授。主著にWomen and British Party Politics, Sex Gender and the Conservative Party, Feminist Democratic Representation など。2015年-16年の英国庶民院での調査をもとに **The Good Parliament** 報告書を執筆。



「The Good Parliament」



[主催] 日本学術会議政治学委員会比較政治分科会

[後援] 政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟

[協力] 科研費(研究課題番号: 18H00817, 代表: 三浦まり)

日本学術会議 公開シンポジウム

「感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方」

機能分化社会から機能混在社会へ

2023年1月22日(日)10:00-13:00

オンライン開催

お申し込みはこちら <https://forms.gle/nT9krbPVwCffhDNx6>



総合司会 小野 悠 豊橋技術科学大学

開会挨拶・趣旨説明 竹内 徹 東京工業大学

第一部 実空間において起こりつつある機能混在社会の実態

暮らし方 からみるコロナ禍の変化と今後

定行 まり子 日本女子大学

働き方 からみるコロナ禍の変化と今後

渡邊 朗子 東洋大学

学び方 からみるコロナ禍の変化と今後

斎尾 直子 東京工業大学

過ごし方、楽しみ方 からみるコロナ禍の変化と今後

伊藤 香織 東京理科大学

第二部 機能混在社会における情報のあり方

生活者のケア情報 からみるコロナ禍の変化と今後

三輪 律江 横浜市立大学

公共的な情報 からみるコロナ禍の変化と今後

山本 佳世子 電気通信大学

社会インフラの情報 からみるコロナ禍の変化と今後

高橋 良和 京都大学

総合討論

コメンテーター 古谷 誠章 早稲田大学

出口 敦 東京大学

コーディネーター 伊藤 香織

閉会挨拶 竹内 徹

日本学術会議 公開シンポジウム

「感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方」

機能分化社会から機能混在社会へ

2023年1月22日(日)10:00-13:00

オンライン開催

お申し込みはこちら

<https://forms.gle/nT9krbPVwCffhDNx6>



COVID-19によって住まい方や働き方など新しい生活様式が立ち現れ、建築と地域、都心と郊外、大都市圏と地方など空間の意味づけや関係性が変化している。これらの様々な変化は、「近代の建築・地域・都市が拠り所としてきた、機能主義的な社会から、空間的・時間的に機能は完全に分化せず緩やかに共存し流動する『機能混在社会』へ」という大きな変化の顕在化と捉えられるのではないだろうか。また、機能分化した建築で定義されていたコミュニティが共存・流動化した社会はデジタルインフラの普及に支えられながら進行していると考えられる。本シンポジウムでは、感染症拡大で起こった諸事象・諸対応からの学びを通して、顕在化しつつある新たな建築・地域・都市のあり方とそこに向かう方法について議論していきたい。

第一部は実空間において起こりつつある機能混在社会の実態について4つの話題から議論していく。第二部は、今後の機能混在社会において実空間とバーチャル空間をつないでいく情報のあり方について3つの話題を通して、流動化した社会の行政支援・リスク管理に必要なデジタルインフラの整備についてさらに議論を深めていく。

主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会

共催（予定）：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人地理情報システム学会、一般社団法人日本計画行政学会

公開シンポジウム

薬剤師のプロフェッショナリズムを考える

主催: 日本学術会議 地域共生社会における薬剤師職能分科会・薬学委員会
日本薬学会、日本医療薬学会

実行委員長: 奥田 真弘 (日本学術会議会員、日本医療薬学会監事、大阪大学医学部附属病院教授)

後援: 日本生命科学アカデミー、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、薬剤師
認定制度認証機構、薬学教育評価機構、薬学教育協議会

開催方法: Web開催 (YouTube Live配信、参加登録者は1月25日(水)から2月
10日(金)まで視聴可能)

2023年
1/22(日)

13:00~16:40

参加無料



参加申込方法: 1月20日(金)までに下記のURLまたはQRコードから参加登録をお願いします。
前日までに[ミーティングID][パスワード]をお送りいたします。
<https://appmanage.cloud/kumamoto-u/symposium/2022/>

開催趣旨: 持続可能な医療の提供や創薬に対する社会からの要請に的確に応えられる薬剤師の養成が喫緊の課題となっています。現在改訂が進められている次期の薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、「プロフェッショナリズム」が新たな項目として盛り込まれることが検討されています。本シンポジウムでは、医療、行政、産業、アカデミアなど多様な領域で活躍が期待される薬剤師のプロフェッショナリズムはどうあるべきかについて、多様な立場のシンポジストからいただいた提言をもとに議論を深めます。

[プログラム] (敬称略)

- 開会挨拶 望月 真弓 (日本学術会議副会長、日本薬学会監事、日本医療薬学会監事、慶應義塾大学名誉教授)
佐々木 茂貴 (日本薬学会会頭、長崎国際大学薬学部教授)
- 趣旨説明 入江 徹美 (日本学術会議連携会員、熊本大学大学院生命科学研究部特任教授)

前半司会: 安原 真人 (日本学術会議連携会員、日本医療薬学会監事、帝京大学薬学部特任教授)

- 経済・財政から見た我が国の医療の課題
佐藤 主光 (一橋大学経済学研究科教授 / 社会科学高等研究院医療政策・経済研究センター長)
- 薬害被害者・一般市民の立場から
花井 十伍 (NPO法人ネットワーク医療と人権理事)
- 医療者に求められるプロフェッショナリズム
福井 次矢 (東京医科大学茨城医療センター病院長 / NPO法人卒後臨床研修評価機構専務理事)

司会: 矢野 育子 (日本学術会議連携会員、日本薬学会理事、日本医療薬学会理事、神戸大学医学部附属病院教授)・
安原 真人

■ 総合討論1 ■

後半司会: 石井 伊都子

(日本学術会議連携会員、日本薬学会副会頭、日本医療薬学会副会頭、千葉大学医学部附属病院教授)

- 薬剤師行動規範とプロフェッショナリズム
豊見 敦 (日本薬剤師会常務理事)
- レギュラトリーサイエンスの立場から
合田 幸広 (日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所所長)
- 行政や産業界で活動する薬剤師の立場から
森 和彦 (日本製薬工業協会専務理事、前厚生労働省大臣官房審議官)
- 薬学教育の立場から医療プロフェッショナリズムを考える
鈴木 小夜 (慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター医療薬学部門教授)

司会: 奥田 真弘・石井 伊都子

■ 総合討論2 ■

- 文部科学省挨拶 境 啓満 (文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐)
- 厚生労働省挨拶 太田 美紀 (厚生労働省医薬・生活衛生局総務課薬事企画官)
- 閉会挨拶 山本 康次郎 (日本医療薬学会会頭、群馬大学大学院医学系研究科教授)

【問合先】 入江 徹美

〒862-0973 熊本市中央区大江本町5-1 熊本大学大学院生命科学研究部

TEL 096-371-4552, E-mail: tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp

公開シンポジウム 第16回 日本学術会議 情報学シンポジウム

量子コンピューティングの展開

主催：日本学術会議 情報学委員会

日時 2023年1月23日(月) 13:00~17:00

場所 オンライン開催, 参加費無料

後援 国立情報学研究所, 情報通信研究機構, 電子情報通信学会,
情報処理学会, 映像情報メディア学会,
大学ICT推進協議会(AXIES) 【以上、予定】



13:00 開会挨拶 相澤清晴 (日本学術会議第三部会員, 東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

第1部 情報科学技術の戦略

13:10 工藤 雄之 (文部科学研究振興局参事官)

「文部科学省における情報分野の科学技術政策について」

13:30 Dr. Lee Woolgar (Senior ICT Policy Officer, Delegation of the European Union to Japan)

“Horizon Europe, and the new EU-Japan Digital Partnership”

14:00 Dr. Erwin Gianchandani (NSF, Assistant Director for Technology, Innovation and Partnerships, USA) “Accelerating Technology, Innovation and Partnerships”

14:20 - 14:30 (休憩)

第2部 量子コンピューティングの展開

14:30 井元信之 (東京大学特命教授室特任教授) 「量子コンピューティングの変遷と展開」

15:00 鈴木泰成 (NTT コンピュータ&データサイエンス研究所)

「誤り耐性量子コンピュータのアーキテクチャ設計とコンパイラ開発」

15:30 藤井啓祐 (大阪大学基礎工学研究科教授、大阪大学量子情報・量子生命研究センター副センター長) 「量子コンピューティングの現状と展望 - 量子アルゴリズム、機械学習」

16:00 佐藤信太郎 (富士通研究本部量子研究所長)

「量子コンピューティング実用化に向けた取り組み」

16:20 パネルディスカッション

司会：相澤清晴

ショートトーク：村尾美緒 (東京大学大学院理学系研究科教授)

「量子コンピューティングを通じて理解する量子情報処理」

パネリスト：

井元信之、鈴木泰成、藤井啓祐、佐藤信太郎、村尾美緒

16:50 閉会挨拶 大場みち子 (日本学術会議第三部会員, 公立はこだて未来大学教授)

参加申込：[参加申込フォーム](#)

詳細：[情報学シンポジウムサイト](#)

問い合わせ先：情報学シンポジウム事務局：<https://forms.gle/zF4gwXzrZ6uDeZVE6>

持続可能な社会のための 科学と技術に関する国際会議

2022年度

International Conference on Science and Technology for Sustainability

「災害と健康」

開催概要

- 会 期：2023年1月25日(水)、1月26日(木)
開催形式：ZOOM ウェビナー 言 語：日本語・英語(同時通訳)
定 員：約1,000名 参加費：無料
主 催：日本学術会議(国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に
関する国際会議2022分科会)
後 援：日本社会福祉系学会連合 国際ソーシャルワーク学校連盟



プログラム

*プログラム・出席者ともに変更になる可能性があります。

日 程	タイトル	概 要
1月25日(水)『公衆衛生資源の備えとガバナンスの強化』		
14:00-14:05	開会挨拶	梶田 隆章(日本学術会議会長/東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所・教授)
14:05-14:10	来賓挨拶(ビデオ)	後藤 茂之(内閣府特命担当大臣(経済財政政策))
14:10-14:15	趣旨説明	武田 洋幸(東京大学執行役・副学長/東京大学大学院理学系研究科教授)
14:15-14:30	基調講演	Rajib Shaw(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)
14:30-14:45	ショートスピーチ1	Michael R. Reich(ハーバード大学武見太郎国際保健政策名誉教授)
14:45-15:00	ショートスピーチ2	國井 修(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金CEO兼専務理事)
15:00-15:15	ショートスピーチ3	後藤 あや(公立大学法人福島県立医科大学総合科学教育研究センター教授)
15:15-16:15	ディスカッション1	郡山 千早[モデレーター](鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授)
		Rajib Shaw
		Michael R. Reich
		國井 修
1月26日(木)『防災と福祉～誰一人取り残さない社会の構築～』		
19:00-19:05	趣旨説明	武田 洋幸(東京大学執行役・副学長/東京大学大学院理学系研究科教授)
19:05-19:20	ショートスピーチ4	Lena Dominelli(スターリング大学災害介入・人道支援プログラムディレクター)
19:20-19:35	ショートスピーチ5	立木 茂雄(同志社大学社会学部教授)
19:35-19:50	ショートスピーチ6	Louise Harms(メルボルン大学ソーシャルワーク部長・チェア)
19:50-20:05	ショートスピーチ7	Johnston H. C. Wong(北京師範大学-香港バプティスト大学連合国際学院人文社会科学部社会科学科教授)
20:05-20:55	ディスカッション2	和氣 純子[モデレーター](東京都立大学大学院人文科学研究科教授)
		Lena Dominelli
		立木 茂雄
		Louise Harms
20:55-21:00	閉会挨拶	Johnston H. C. Wong
20:55-21:00	閉会挨拶	高村 ゆかり(日本学術会議副会長/東京大学未来ビジョン研究センター教授)

申込方法

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_4OHIQUsqQ7WbBFSTs02MNA

受付期間：2022年11月15日(火)～2023年1月25日(水)正午 ※定員になり次第締め切り

お問い合わせ：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022 事務局
(株式会社日本旅行 公務法人営業部)

TEL：03-5369-4533 / FAX：03-3225-1004 / E-mail：stst@nta.co.jp

営業時間：9:45-17:45(土・日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)は休業)

※休業日、営業時間外にお送りいただいたメールへの返信は翌営業日以降となります。



原子力総合シンポジウム2022

新たな社会状況に貢献する 原子力技術の期待と課題

東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故から10年間の総括を踏まえ、
新たな社会状況に貢献する原子力技術、原子力システムへの期待と課題を総括する。

日時 2023年1月26日(木) 10:00~17:35

場所 日本学術会議講堂(オンライン併用予定)

参加費 無料 ※事前に参加申し込みが必要です

参加申込 <https://www.aesj.net/symp20230126>



プログラム

- 10:00 開会挨拶 関村直人(日本学術会議連携会員, 東京大学副学長・教授)
- 10:10 「日本学術会議 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会」の活動の報告
司会: 越塚誠一(日本学術会議連携会員, 東京大学教授)
「東京電力福島第一原子力発電所事故による環境汚染の調査研究の進展と今後に向けた課題」
森口祐一(日本学術会議連携会員, 国立環境研究所理事)
「継続的イノベーションの検討」
松岡 猛(日本学術会議特任連携会員)
「研究用原子炉の在り方に関する『見解』策定に向けて」
中島 健(京都大学教授)
- 13:00 原子力を取り巻く社会状況の変化
司会: 大倉典子(日本学術会議第三部会員, 芝浦工業大学名誉教授)
「原子力事業の不透明性をいかに克服するか」
竹内純子(国際環境経済研究所理事, 内閣官房GX実行会議委員)
- 13:40 原子力技術活用への期待と課題
「我が国の原子力政策の在り方について」
上坂 充(原子力委員会委員長)
司会: 野口和彦(日本学術会議連携会員, 横浜国立大学客員教授)
「原子力の安全を支える知識基盤・技術基盤の強化に向けて」
更田豊志(前原子力規制委員会委員長)
「福島第一原子力発電所事故後の取り組みから考える原子力の課題 放射線防護からの視点」
吉田浩子(東北大学研究教授, 日本保健物理学会会長, 国際放射線防護学会理事)
- 16:00 総合討論
コーディネーター: 関村直人, パネリスト: シンポジウムの各講演者,
奥山俊宏(上智大学教授, 元朝日新聞編集委員), 川村慎一(日本原子力学会会長)
- 17:30 閉会挨拶 川村慎一

公開シンポジウム
「ダイバーシティ推進と日本社会の＜不平等＞」
の開催について

1. 主催：日本学術会議社会学委員会
2. 共催：社会学コンソーシアム
3. 日時：令和5年（2023年）1月28日（土）13：00～16：00
4. 場所：オンライン開催
5. 開催趣旨：

1990年代に「多文化」「多文化共生」という言葉が流布され、地域社会や企業を中心に異なる国籍や民族の人々との協同が新しい価値観や創造性をもたらす上でも重要であるとの認識が広がりを見せた。その後、2000年代半ばから企業を中心に「多様性が創造的価値をもたらす」といった言説とともに「ダイバーシティ」が喧伝され、この言葉が各方面で使われ、具体的な施策が進んでいる。

ここでは、「ダイバーシティ推進」という意味／含意をとりあえず「ジェンダー、国籍、エスニシティ、宗教、セクシャリティの違いや、障がいの有無にかかわらず、すべての人の能力、個性、思想等が十全に尊重され、公正で平等な環境の下で社会活動が行われるための活動及び施策」と位置付けよう。こうした活動や施策がきわめて重要な社会的課題であることは言うまでもない。

しかしながら、今日の日本社会の現状をみると、「ダイバーシティ推進」が、企業、労働、教育（大学）、福祉、学会といった各分野で強調されている一方で、その動きとは相反するような事態も浮かび上がっている。たとえば、セクシャリティの多様性が認知される一方で、ジェンダー間の格差に関する認識が薄れ、具体的な改善が一向に進まない状況がある。あるいは、名古屋の入管問題に端的に示されたように、「非正規移民」を生み出す出入国管理制度の問題や国籍・エスニシティの違いによる差別や排除といった深刻な事態がある。また障がい者に対する理解が進む一方で、障がいを持つ人々を「非生産的」と見なし、差別する意識も根強く存在している。

「ダイバーシティ推進」とそれを拒むような動きが、それぞれの分野でいかなる形で、どのような力関係の下で生まれているのか。そこに、社会的領域の違いを超えて、日本社会全体に共通した思想的・社会的・制度的問題はないのか。あるいは「ダイバーシティ推進」のための施策や活動を推進する側に「弱点」や「課題」はないのか。

本公開シンポジウムは、こうした社会学が対象にするフィールド全体にかかわる問題について、多様な分野から報告を行い、議論することを目指す。

6. 次 第：

司会 伊藤 守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授、社会学コンソーシアム理事）

有末 賢（亜細亜大学都市創造学部教授、社会学コンソーシアム理事）

挨拶

13:00 開会の挨拶

佐藤 嘉倫（日本学術会議第一部会員、京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科教授）

13:10 シンポジウムの趣旨説明

伊藤 守（早稲田大学教育・総合科学学術院教授、社会学コンソーシアム理事）

13:15 第1報告『ダイバーシティは不平等を推進するのか、是正するのか：移民研究の立場から』

樋口 直人（早稲田大学人間科学部教授）

13:35 第2報告『企業におけるダイバーシティを阻んできたもの：歴史的視点から』

山田 信行（駒澤大学文学部教授）

13:55 第3報告『障がい者という／におけるダイバーシティ』

田垣 正晋（大阪公立大学現代システム科学域教授）

14:15 第4報告『ダイバーシティから見る日本のジャーナリズム』

林 香里（東京大学情報学府・情報学環教授）

休憩（5分）（14:35～14:40）

14:40 コメンテータからの質問及び質疑

堅田 香緒里（法政大学社会学部准教授）

江原 由美子（東京都立大学名誉教授）

15:00 報告者からのコメント

15:20 会場からの質問

挨拶

閉会の挨拶

和氣 純子（日本学術会議第一部会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授）

16:00 終了